

口マンは実を結ぶ

JR西日本連合 和歌山地本 No.228

JR連合とともに福知山市長を訪問

JRに係る政策課題を共有

中央本部は、1月17日、JR連合とともに京都府福知山市を訪問し、JR西労組議員団会議に所属している大橋市長と意見交換を行った。地域共生を掲げるJR西労組・JR西日本の方針に基本的な理解をいただくとともに、今後の地域公共交通のあり方などについて、議論を深めた。

当日は、JR連合から中村中央本部部長、JR西労組中央本部から荻山中央執行委員長、宮野政策・調査部長、福知山地本から西村委員長、尾崎書記長が参加した。

冒頭、JR西労組から福知山市に対する要望書を手交し、荻山委員長は、JR西日本と福知山市の連携をさらに深めていくことを要請した。続いて、JR連合・中村部長から「チーム地域共創」をつくる9提言（鉄道特性活性化PT最終答申簡略版）について説明を行ったあと、宮野部長が、手交した要望書につ



今後の地域公共交通等について議論



「地域共創」チームが集結

にとどまっている。

今回要望した内容は、①地域公共交通に関する協議会の労組としての参画、②福知山市地域公共交通網形成計画の進捗状況や今後の進め方についての確認、③治山・治水対策の強化、④災害対策の強化の4点。JRを「当然残るもの」ではなく、まちづくりの観点から利用を促す仕組み作りを、と強く訴えた。また、被害については、鹿ノノシシに留まらず、熊まで出没するといった現状から、命の危険を感じながら対応していることを訴えた。

その後の大橋市長との意見交換では、治水対策の現状と課題についても、ご教示いただいた。また、利用促進の起爆剤となるICOCAの導入については、福知山市だけでなく沿線自治体からも強く要望があり、観光促進の観点からも、交通事業者とWin-Winの関係構築していきたいという考えを伺うことができた。

福知山市は、最近では「肉とスイーツのまち」でPRし

連合和歌山の堅い結束!

JR西日本連合和歌山地本は、JR西労組和歌山地本とジェイアール西日本メンテック労働組合、和歌山ターミナルビル労働組合で構成しています。その中で、今回はジェイアール西日本メンテック労働組合・和歌山支部の取り組みを紹介いたします。

ジェイアール西日本メンテック和歌山支店の業務は、清掃業務の他に駅営業の業務受託も行っていま

す。受託範囲としては、紀勢線新宮～和歌山市、和歌山線大和～和歌山、阪和線長滝～和歌山とJR和歌山支社管内です。和歌山支部では、日々の業務をこなしながら、不定期ながらも執行部で集まり、各種課題に対して議論を重ねています。

2018年11月21日には、30回目の節目となる、第30回和歌山支部大会が開催され、新執行体制が確立されました。また、当日参加された代議員も含めて懇親会も開催し、運動意識の共有化を図りました。

和歌山支部大会の締めくくり、団結カンパロー!



ているが、古くから交通の要衝である「鉄道のまち」でもある。今後さらにJRとの連携を強化し、地域の移動手段だけでなく、京阪神や日本海側・山陰地方との結節点としての役割も強化していく必要がある。引き続き

第2回拡大安全対策委員会

グループ一体で 重大労災防止の体制構築を!

中央本部は、1月22日(火)に、宝塚商工会議所において、JR西日本連合の鉄道関係7単組(NESCO労組、JR西日本テクノス労組、JR西日本メンテック労組、広成建設労組、大鉄工業労組、西日本電気テック労組、JR西日本テックシア労組)出席のもと、第2回拡大安全対策委員会を開催した。

冒頭、荻山委員長は、重大インシデント以降も重大労災が相次いでいることに触れ、特に今年グループとのコミュニケーションを活性化し、グループや現場の立場に立った安全対策を行う決意を述べた。

その後、安全対策委員会事務局長の福本業務部長より、前回委員会以降の経過報告がなされた。特に、新幹線重大インシデントの発生とその対応、さらに相次ぐ重大労災について、これまで



安全の方針について提起する福本部長



大鉄工業「技術研修センター」

き、大橋市長と連携し、「チーム地域共創」をつくりあげる取り組みを進めていくことを確認した。

を回り、すべてのJR関係労働者の、触車事故防止の体制構築に取り組みしていくことを確認した。

会議終了後は、大鉄工業労組のご協力で、新三田駅にある技術研修センターを見学した。当センターは、建築土木・保線などの各分野で、確実に技術継承を行うべく、「失敗を恐れず自分自身で体感・学習する」をコンセプトに、2016年3月に完成した。

グループ労組における安全確立・技術継承の重要性について、参加者は思いをついにした。

次代のJR西労組運動を担う役員育成

ユニオンカレッジ

第178期「青年女性委員会コース」

中央本部は、ユニオンカレッジ第178期「青年女性委員会コース」を1月18日(金)～19日(土)にかけて、37名の受講生の参加のもと、琵琶湖コンファレンスセンターにおいて開催した。

今回の研修には、各地本総支部における青年女性委員会の三役が中心に集まり、顔見知りも多く、非常に活気あふれる研修会となった。

研修会の内容も、青年役員向けに構成されており、



アイスブレイクで和やかに始まる研修



朝の集いは恒例の琵琶湖畔で

まずは普段行っているアイスブレイクについて、その目的や方法、種類や順序などについて、富士社会教育センターの武田講師から、実演を交えて講義を受けた。

その後、里内副委員長から講義を受け、国鉄末期における無秩序状態の反省から生まれたJR西労組の歴史や、現在JR東労組で起る大量脱退から得られる教訓について学んだ。

2日間の日程を修了した閉講式では、その表情などから受講生の少し成長した様子を伺うことができた。

今回の受講生たちが、地本支部・分会の青年役員として今後ますます活躍し、さらには将来基本組織において、各職場に山積する多くの課題を解決し、職場の世話役活動や、意見を代弁するリーダーとして、活躍していただくことを期待する。

